

オオツノハネカクシ *Bledius salsus* Miyatake

【選定理由】

かつては塩田にみられた種であったが、近年の製塩法の変化に伴う塩田の減少により、本種の生息環境も減少した。

【形態】

体長 6~7mm。体は黒褐色で、前胸背、上翅側端部、尾端節、肢は褐色。♂の前頭部に 1 対、前胸背板の前縁中央に 1 本の角を具え、♀は頭部前方に 1 対の突起を具える。

【分布の概要】

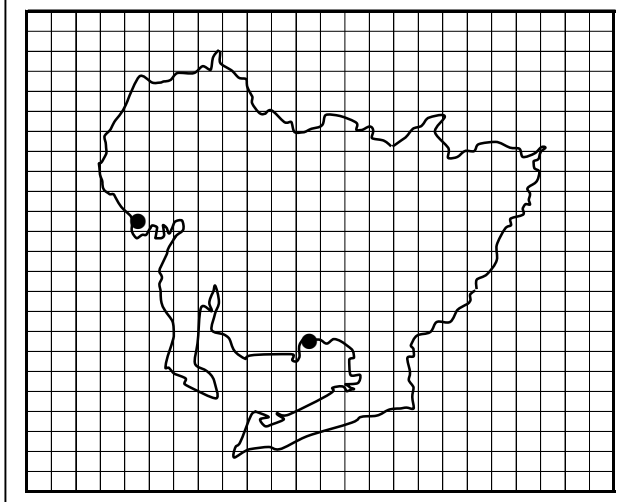
【県内の分布】

弥富市（旧弥富町）鍋田（穂積, 1990）、蒲郡市塩津。

【国内の分布】

瀬戸内海沿岸地帯、東京都多摩丘陵、東京都大田区。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

昭和 35 年頃から、瀬戸内の流下式塩田では、流下盤として使われた海底の粘土に孔をあけ破壊してしまう昆虫が現れた。研究の後、新種として 1963 年に宮武が上記種に命名記載をし、その後生態と防御が研究された。食性については粘土、珪藻と 2 説がある。

【現在の生息状況／減少の要因】

製塩法も画期的に変わり塩田も見られなくなった。現在では干拓事業の行われている地区にわずかに生息しているに過ぎない。

【保全上の留意点】

鍋田干拓周辺など、現在残されている生息地周辺では、生息環境の維持、保全が必要であると思われる。

【引用文献】

穂積俊文, 1990. オオツノハネカクシの新産地. 月刊むし, (235). 28.

【関連文献】

渡辺泰明, 1985. 原色日本甲虫図鑑(Ⅱ), 514pp. 保育社. 大阪.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)